

児童教育を支援する
「博報財団」が、すぐれた
取り組みを顕彰する

第49回「博報賞」受賞

日本文化理解教育部門

栃木県 小山市立絹義務教育学校

「からまっちゃうー！」
「難しい！」
糸紡ぎに悪戦苦闘

結城紬の「糸取り」（絹糸の
手紡ぎ）で伝統工芸士に認定
されている塚原アイさんが
真綿をたぐって絹糸を細く
細く紡いでいく。塚原さんを
絹義務教育学校の4年生がぐ
るりと取り囲み、その指先を
じっと見つめる。

次に、塚原さんにコツを教
わりながら自分たちでやって
みると、とても塚原さんのよ
うにはいかない。
太くて不均一な糸を手
に、安田心太郎くんは「ふー！
思っていたより、ずっと難し
い！」と嘆息する。実体験を
通して、子どもたちは紡ぎ手
の、経験に裏打ちされた手わ
ざの妙を実感したようだ。

小山市立絹義務教育学校は
平成29年に、栃木県初の小中
一貫校として小山市立福良小
学校、梁小学校、延島小學校
と絹中學校が統合されて開校
した。

本校の特色は、9年間かけ
て実施される「ふるさと学習」
である。地場産業の重要無形
文化財で伝統的工芸品の絹織
物、結城紬のすべての生産工
程を体験する。結城紬をテー
マに据えた「ふるさと学習」
は、統合前の福良小學校で始
まったものだ。ふるさとの優
れた伝統文化の理解と尊重
継承、さらには日本人として
の自覚と誇りを育む教育とし
て、統合後の小中一貫校では、
さらに後期課程での学習も加
えて採用された。

真綿づくり（3年生）、糸紡
ぎ（4年生）、絹づくり（絹模
様をつくるために絹糸を木綿
糸で縛って染まらない箇所を
つくる作業）と染色（5年生）、
そして機織り（6年生）と、結
城紬を「からまっちゃうー」
り上げていく。指導するのは、

もちろん地元の結城紬の担い
手たちだ。
さらに後期課程（中学）の7
年生では結城紬の着物を着付
けして、着心地を体験。8、
9年生は、蚕の餌ともなる桑
の葉や枝を用いて和紙、和菓
子づくりを行うなど、9年生を



4年生の真剣なまなざしを受けて、糸紡ぎの実演を披露する伝統工芸士の塚原アイさん(中央)。

9年間を見通した 「ふるさと学習」による伝統文化を 尊重する児童生徒の育成

ユネスコ無形文化遺産「本場結城紬」は、すべての工程が手仕事でなされている。職人の指導のもと、その工程の体験と発展的学習というユニークな取り組みに、博報賞（日本文化教育部門）が贈られた。

通して地場の伝統産業を体験
しつづける。

子どもに郷土の誇りを、
未来の後継者の
育成にも期待

5年生では染色の体験学習
をする。自分たちが3年生の
時に作った真綿に、青、赤、
黄の染料をかけて染めてい
く。これを指導するのは地元
で130年続く染色店の5代
目、大久保雅道さん。大久保
さんはこの「ふるさと学習」
が始まる以前から、近隣の多
くの小学校で藍染を教えてき
た。体験学習の指導歴20年の
大ベテランで、工夫を凝らし
た指導を続ける。
「本来の結城紬は糸を染めま
すが、子どもたちが紡いだ糸
ではばらつきがあり、うまく
染まらない。そこで真綿の段
階であらかじめ染めてしまっ
たという、工夫を思いついたの
です」

全国の伝統産業は後継者不



糸紡ぎに挑戦する4年生。実際にやってみるとその難しさがよく分かる。

足が深刻な問題だが、結城紬
もその例外ではない。

「まず染色を知ってもらおうと
ころから始めないと、将来の
進路の選択肢にもなりません
から」

次世代に染色の魅力を知っ
てもらいたいと、大久保さん
は指導に熱を込める。

倉井克之校長は、このカリ
キュラムの目指すものは「誇
り」なのだと言ふ。

「結城紬は、世界に通用する
一流の工芸品です。しかし、
時代の流れの中で、養蚕業や
地場産業としての結城紬をめ

ぐる社会や経済の状況は厳し
いのが現状かもしれません。
子どもたちには、伝統の担い
手とともに手仕事を体験する
ことで、すばらしい工芸品を
生み出してきた郷土に誇りを
持ってほしいのです」（倉井校
長）。

この内容の濃いプログラム
には、地場の伝統産業に携わ
る人々の理解と協力が欠かせ
ない。未来を担う子どもたち
を、地域一丸となって育てる
のだという熱い思いが、全国
的にも例を見ない貴重な活動
を支えている。



5年生に染色の指導をする伝統工芸士の大久保雅道さん。



6年生は、養蚕から糸紡ぎなどこれまでの学びの総仕上げにあたる、機織りを体験をする。



色使いを真剣に考えながら染めていく。それぞれの作品には、児童の個性が表れる。



「郷土に誇りを持ってほしい」と語る倉井克之校長。

推薦者 お祝いのことば

この度の「博報賞」受賞は、市内初の受賞であり、義務教育学校開校2年目の快挙であります。おやまの宝「本場結城紬」教材で、おやまを愛するふるさと学習を実践された地道な教育実践が認められての栄えある賞の受賞、誠におめでとうございませう。地域の文化と伝統を最大限に活かし、地域の人々との協力を賜り、子どもの発達段階に合わせて、教育課程を展開して教育成果を挙げていただきました。これから求められる小中一貫教育のモデル的な展開に深く感謝申し上げます。この受賞を誇りにしていただき、他校のよき模範として活躍されることを御祈念申し上げます。

栃木県小山市教育委員会

酒井 一行 教育長